

アセスメントの視点をどのように盛り込むかを検討した。

(2) アセスメント過程と演習用事例の検討

(1) で検討した結果を受けて、ケアマネジャーの実務におけるアセスメントと課題分析の過程を具体的に設定し、それに基づいた事例の条件設定を検討し、VTR用事例に求められる住環境の条件を設定した。

(3) シナリオの作成

設定した事例、住環境、生活課題等に基づいたシナリオの作成を行った。シナリオライターを交えた意見交換を行い、シナリオを作成して校正を重ねた。

(4) 演習用様式類の作成

ケアマネジャーを対象に演習を実施する際に、教材として演習で課題分析に用いる資料や様式類などの配布資料を作成し、演習の目的をより具体化した教材開発を試みた。

3. 結果

(1) 住環境アセスメントの視点の持ち方

本報告書第1章、第2章、第3章の研究結果を検討し、また、ケアマネジャーの本務である生活障害のアセスメント、生活課題(ニーズ)分析、居宅サービス計画立案、の作業過程を分析して、住環境をベースにしたアセスメントの視点をどのように盛り込むべきかを検討した。

その結果、住宅改修に関するディマンズを対象者が訴えた場合に新たに住環境のアセスメントを行う従来の関わり方では、生活課題を解決する手段として介護保険で位置づけられる、生活課題の解決を目指す妥当な住宅改修の実施は困難であるとの結論

を得た。

生活課題を解決することが目標である以上、住宅改修に関してもほかの生活課題への対応と同様に、ケアマネジャーの本務である生活障害のアセスメント、生活課題(ニーズ)分析、居宅サービス計画立案、の作業過程を通じて最初から住環境のアセスメントの視点を持つべきであると考えている。また、住環境によって発生する生活障害は、さまざまな生活困窮と複雑に影響を与え合っており、相乗的に発生する機会が多いことから、住宅改修だけに限定することのない、生活全般に対するアセスメントの実施が求められるべきである。

(2) 演習用事例の検討結果

住環境アセスメントの視点の持ち方に対する検討結果を受けて、教材開発に向けた具体的な検討を行った結果、ケアマネジャーが生活障害をアセスメントして課題分析を行う一連の居宅サービス計画立案までの過程に住環境アセスメントの視点を取り入れることを重視して、演習用事例の場面は対象となる要介護高齢者の生活を評価する最も初期の段階を設定することとした。また、汎用性が高い演習とするため、以下の条件を設定した。

①対象者の障害像

対象者の障害像は、障害特性と住環境の適合性によるADLの変化が最も顕著であり、一般的である障害像として、脳血管障害による片麻痺者を設定することとした。また、演習課題としてさまざまな要素を盛りこんで演習の汎用性を高めることを目指した。その結果、障害の程度は、杖意歩行介助レベルの移動困難者で、日常生活のさ

さまざまな場面で介護を必要としやすいこと、かつ、住環境の整備状況によって動作の安全性が向上し、介助の軽減と一部自立の促進を図ることができる要介護程度であること、生活困窮に対象者の身体状況だけではなくさまざまな要素が関連しやすい状況であること、などを考慮して、要介護3レベルを設定した。

②場面設定

演習事例の場面設定としては、退院直後在宅生活開始後とした。この時期は、顕在化したニーズが多く、対象者のほか取り巻く家族の精神的な混乱も発生しやすい時期であり、かつ、潜在的なニーズを抱えてやすい時期である。希望と現実の落差や介護への不安感などを事例に盛り込むことをめざした。

③住環境の設定

対象となる要介護高齢者が障害発生前から慣れ親しんだ生活環境であることを想定して、築25年から30年程度の住宅で、住宅改修の汎用性が高い戸建て住宅を設定した。実際にVTRに撮影する住宅の間取りによって演習課題の設定に調整を必要とすることから、撮影用住宅の選定を行った。

④家族状況の設定

対象者を取り巻く家族のさまざまな困窮を住環境と絡めて検討を求める演習とするため、家族構成とそれぞれの特性の設定を検討した。主たる介護者を配偶者である高齢者とし、介護者への配慮も多く求められる設定を行った。また、同居家族のディマンズにも現実的な設定となるよう検討を試みた。

これらの検討結果から、資料1に示す演習用事例の設定に至った。

(3) シナリオの作成

作成した事例設定を基にシナリオの作成を行った。研修に参加するケアマネジャーが自身の活動を照らし合わせて理解できるよう配慮し、ケアマネジャーが対象者の家庭を訪問してアセスメントを行う場面を中心に、ケアマネジャーが会話を進行させる形とした。

演習課題としてのVTRは20分から25分に設定した。この時間内でVTRに盛り込むことが難しい情報は、配布して参加者に提供することとして、わかりやすいストーリーとなるよう、また、VTRの撮影の用いる住宅の環境を生活課題に盛り込むよう留意して、シナリオを構成し、推敲を重ねた。完成したシナリオを資料2に示す。このシナリオを基にVTR撮影を行い、円主要教材としてVTRによる演習課題を作成した。

(4) 演習用様式類の作成結果

①VTRによる事例の補足用配布資料

VTRによる演習課題を用いた演習を実施するにあたり、20分から25分のVTRを1回視聴しただけでは、住環境の把握は困難なため、VTRの補足用資料を配布することとして、作成した。

a. 演習用事例の基本情報(資料2を使用)

VTRを視聴する前に基本情報として配布し、参加者には事前に一読するよう求める。

b. VTRで撮影した住宅の配置図と平面図(資料3-1、資料3-2、資料3-3)

ケアマネジャーはVTRを見ただけでは住環境の情報を把握することが難しいので、住環境に関する情報を配布する。平面図には、屋内段差の状況や部

屋の広さなど、基本情報を明記する。

②演習用記入用紙

a. 日常生活活動動作評価表（資料4）

排泄、入浴、外出の3種類の生活場面について、行為の開始から終了までの詳細の動作に分類した動作評価用紙である。VTRを見ながら、対象者の生活動作を観察・評価し、評価用紙に記入する。なお資料4には排泄編を示す。

評価用紙の記入欄は、現状において「している」動作かを観察して記入する欄と、動作能力からみて「できる」かを評価する欄で構成される。両方の欄の記入内容に相違があれば、生活課題として捉える視点を培う作業である。

b. 日常生活活動評価結果（資料5）

日常生活活動動作評価表への記入によって把握した評価結果を集約して記入するための用紙である。

各日常生活動作について、「していること」（現状）、「できること」（能力）、を記入し、現状と能力間の差異を生み出す問題点を身体的・心理的・環境に分類して記入する。また、それらを分析して目標を導き出すことを目指す。この作業過程は、生活課題（ニーズ）を明らかにするアセスメントの過程であり、アセスメントの中に住環境への視点を取り入れたものである。

c. 生活課題（ニーズ）と援助目標記入用紙（資料6-1、資料6-2、資料6-3）

日常生活活動評価結果に記入する作業で分析された生活課題（ニーズ）を記入し、課題の解決に向けた援助目標を短期目標、長期目標に整理して記入する。また、目標に即した援助内容を、「環境整

備」と「環境整備以外のサービス」に分類して記入し、介護保険におけるサービスメニューを頻度・期間と共に記入する。この用紙への記入作業は、居宅サービス計画立案作業に他ならない。ケアマネジャーにとって、日常業務である居宅サービス計画立案作業に環境整備の内容を盛り込んだものである。

d. 福祉用具選定・提案シート（資料7）

生活課題の解決に向けて住環境整備の1手法である福祉用具の選択、提案を行う用紙である。生活改善に求められる福祉用具を生活全般にわたり提案することで、福祉用具に対する検討過程を習得することを目指す。

e. 住宅改修提案シート（資料3-1、資料3-2、資料3-3、を利用）

福祉用具の提案と同様に、生活課題の解決に向けて行う住宅改修の計画案を検討し、提案する用紙である。図の作成が不得意なケアマネジャーに配慮して、間取り図の図中に簡便な記入を行う程度の簡易な記述用紙とした。図で提案が難しい場合には、余白部分に文字で説明を加えることも可能である。

以上の演習用記入用紙は、1つの作業が終了するごとに配布する。作業を重ねることで、通常業務で省略している思考の過程を再認識し、住環境をアセスメントする視点を円滑に居宅介護サービス計画作成作業に盛り込む能力を習得できるよう、工夫したものである。記入用紙の提示については、記入方法の詳しい指導を随時行い、円滑に作業と思考を進められるよう、演習における配慮も合わせて行う。

退院直後の脳出血による左片麻痺者の援助計画

【本人及び家族の状況】

＜基本情報＞

M. H. さん 68歳 女性 東京近郊（千葉県）の住宅地在住
要介護3 障害老人の日常生活自立度 A2 痴呆老人の日常生活自立度 正常
身長 150cm 体重 45kg

＜本人の希望＞

今のベッドのある部屋は玄関や廊下の人動きが伝わり、また、息子の帰宅時間が遅くて落ち着かない。今までどおり日当たりのよい2階で生活したい。2階に上げられるようになりたい。

＜家族の希望＞

今までは1階が長男世帯、2階が本人世帯であった。本人の退院に伴い、急遽1階にベッドを入れたが、できれば今までどおり2階で生活できるようにしたい。またできれば今までどおり（少なくとも多少は）家事ができるようになってもらいたい。

＜生育歴及び生活歴＞

昭和10（1935）年横浜生まれ。高等学校（商業科）卒業後、横浜市内で会社勤め（事務職）。25歳で高等学校教員の夫と見合い結婚し退職。男女2人の子供を出産し、専業主婦。昭和42年、それまでのアパートでは手狭になったので、現在の土地を購入し自宅を新築、転居した。以後現住所にて生活している。

＜現病歴＞

平成15年8月10日朝、布団から出ようとしたところ起き上がることができず、救急車にて近所の救急病院に搬送される。救急車に乗るまでは意識があったがその後意識消失。診察の結果、脳梗塞（右中大脳動脈領域）と診断され即時入院。保存的治療を受けるが、左片マヒが残存。8月25日、リハビリテーション目的で、都内の回復期リハビリテーション病棟に転院し、理学療法、作業療法、言語療法を受け、病棟内4点杖歩行見守りの状態で、10月30日に退院した。入院中に要介護認定を受けている。なお、退院の1週間前にケアマネジャーが決まり、介護保険でポータブルトイレ、を購入。ベッド、マットレス、ベッド用手すり、4点杖を取り揃えた。

<既往歴>

これまで医者にかかったことがないことが自慢だったが、今回の入院で糖尿病を指摘され、現在、薬と食事療法（1200 ・）による治療中であるが、血糖値は安定している。また同様に高血圧も指摘され、降圧剤服用により 140～160/90 程度で管理されている。

<家族構成と発病前の生活状況>

70 歳の夫、40 歳の長男、39 歳の長男の妻、10 歳（男、小学5年生）と6歳（女、保育園児）の孫の6人暮らし。夫は高等学校の校長を最後に 60 歳で定年退職後しばらくは、再雇用で事務仕事などしていたが、年金受給後（65 歳以降）は無職。最近は庭いじりや趣味の魚釣りなどを楽しんでいる。長男は商社員で海外出張も多く不在がち、長男の妻は、長男とは大学の同級生で、現在地方公務員として都内の区役所に勤めている（事務職）。10 歳の孫は学区の小学校に通学しており、長男の妻が帰宅するまでは、本人や夫が面倒を見ており、6歳の孫の保育園の迎えも、本人や夫が行くことが多かった。

また、調理や掃除など日常の家事はほとんど本人が任っていた。長男の妻にとっては、仕事と育児の両立に欠かせないものであった。

夫は 160 cm 58 kg、長男は 172 cm 70 kg、長男の妻は 162 cm 53 kg で、現在のところ孫も含め、家族には健康上の問題や不安はない。

<経済状況>

夫と本人の共済年金と、長男と長男の妻の就労所得があり、現在の生活には問題ない。本人の預貯金も 500 万円程度あり。

<日常生活活動の状況（退院直前の病院での状況）>

食事：ベッド端座位にて自立。

排泄：日中は看護師等の付き添いにより病棟トイレを利用。移動は4点杖により見守りで歩行可能だが、立位バランスが不良のため、下衣の着脱に介助が必要。夜間はポータブルトイレを使用。移乗は自立だが、下衣の着脱と後始末に介助が必要。

更衣：上衣は自立。ボタンの着脱も可能。下衣及び靴下は介助が必要。

入浴：病棟の個別浴槽（家庭用浴槽）にて介助で入浴。着脱衣はいすに座って行うが、下衣は介助が必要。浴室内は手すりにつかまって歩いて移動するが、短下肢装具を装着していないので不安定となり、介助が必要。浴槽出入りは手すりにつかまって腰掛けて、右側（非マヒ側）から可能だが、マヒ側下肢の浴槽出し入れと浴槽内立ちしゃがみに介助が必要。洗体、洗髪はシャワーチェアに座って行うが、洗髪及び下肢を洗うには介助が必要で、上半身を洗うときには、ループ付タオルを使用していた。

移動：歩行は靴べら式短下肢装具を装着し、4点杖にて見守り～軽介助で、20メートル

程度歩行可能。立位保持はバランスが悪く、また恐怖心もあるため手放しではできない。屋外歩行は困難。5cm程度であっても段差昇降はできない(身体を支えるような介助が必要)。立ちしゃがみは座面の高さ40センチ程度のいすからはつかまって可能だが、それよりも低いところからは介助が必要である。

【退院にあたっての主治医の意見】

退院後しばらくの間は、週2回程度の外来通院による理学療法、作業療法が必要である。その後は廃用症候群の予防の観点からも、外出機会を確保するためのサービスが必要と考えられる。また糖尿病、高血圧の管理も必要となるため、近所にかかりつけ医をみつけ、定期的に受診する必要がある。

【住宅の状況】

1階の台所、食堂、居間、浴室、トイレを2世帯で共用している。今回の入院前は2階の8畳洋室、6畳和室、6畳納戸が本人夫婦の居室であった。8畳洋室を寝室として使用、ベッドで就寝していた。退院直後の現在は、長男世帯の部屋にとりあえずベッドとポータブルトイレを入れて寝起きている、という状態である。自宅周辺の道路には、急坂、階段等はない。

【現在の状況】

現在は退院直後(3日から1週間程度)。ほとんど歩行もせずにベッド上で過ごすことが多い。日中は家族の介護でトイレに移動し用をたしているが、夜間は使えていない。ポータブルトイレで済ませている。

家族はまだ入浴まで気が回らない状況。入浴は1回も行っていない。どうしたらよいかもわからない様子。

外出はまったくしていない。

夫は本人の入院中、頻繁に見舞いに病院へ通い、本人の心の支えになっている。夫は今後もできるだけがんばりたいと思っているが、日中本人と二人きりになると何かあったときの対応に不安を感じている。孫の保育園の送り迎えは行えない。今後どうするか、家族で思案中である。

本人入院後は、家事は長男の妻を中心に行っている。長男も協力しているが出張も多くあまり負担できていない。長男の妻は子供の世話に加え、夫及び長男の食事の世話など、家事の負担が重いと感じ始めている。

家族関係は良好で、協力し合っていこうという気持ちが固まっているが、具体的な計画性をもたず、当惑している状況。

最終的な決定権は本人と夫にある。話し合っていて決めている。息子夫婦は本人たちの決定に反対する気持ちはない。

プロローグ	<p>ケアマネジャーに必要な 住宅改修アセスメント技術 研修用ビデオ 第2巻シナリオ</p> <p>タイトル 『居宅サービス計画の立案に向けた 課題分析の実際』</p>
<p>□森下葉子さんの事例</p> <p>自宅のベッドで横になっている 森下葉子さん 介護保険で取り揃えた福祉用具 の数々</p>	<p>ナレーション</p> <p>「森下葉子さん 68 歳は、半年前に突然脳梗塞となり入院。保存的治療を受けましたが、左片マヒが残存、その後、回復期リハビリテーション病院に転院し、入院中要介護認定を受け、要介護3と判定されました。</p> <p>今日は、葉子さんが退院して自宅に戻ってから5日目です。</p>

<p>□ 在宅介護支援センター ケアマネジャーの大石さんが 電話の対応など、あわただしく 働いている様子をスケッチ</p>	<p>ナレーション 「こちらは担当ケアマネジャーの大石さんです。</p> <p>今日は、今後、葉子さんが在宅での生活を続けていくために必要なことについて話し合うための退院後初めての訪問です。</p> <p>これからの生活をどのように支えていったら良いかを、ケアマネジャーの大石さんとともに、みなさんも考えてみて下さい。</p>
<p>□家の前にやって来る大石 家の周囲の状況を見ながら、玄関 へ向かう大石</p> <p>○家族構成図がダブル</p> <p>玄関アプローチを振り返りながら、 チャイムを鳴らす大石</p> <p>□玄関口で 出てくる森下さんのご主人 玄関脇に車椅子</p> <p>ご主人の顔をしみじみ見る大石</p>	<p>ナレーション 「森下さんの家は築 30 年あまりの二階建ての日本家屋です。今までは1階を長男世帯が、2階を葉子さん夫婦が使っていましたが、本人の退院に伴い、急遽1階に電動ベッドを入れました。</p> <p>まず、森下家の家族構成を見てみましょう。 葉子さんには、70歳の夫がいます。同居家族として、40歳の長男とその妻、そして小学5年生と幼稚園児の孫がいます。」</p> <p>大石「ごめんください、ケアマネジャーの大石です。」 ご主人「どうぞ、お待ちしております。」 大石「先ほど、お電話では失礼いたしました。」 ご主人「いや、ちょっと孫の迎え時間があったもので・・・」 大石「もうお済みですか・・・」 ご主人「ええ、以前は家内がやってたんですよ・・・、挨拶しなさい（孫に向かって）」 大石「こんにちは・・・」</p>

<p>○玄関・廊下</p>	<p>孫「こんにちは」</p> <p>大石「失礼します」</p>
<p>○和室</p> <p>ベットに横になっている葉子さん</p> <p>本人に近づき、やさしく丁寧に話し始める大石</p> <p>傍らにご主人</p>	<p>ご主人「大石さん見えたよ・・・」</p> <p>大石「おじゃまします」</p> <p>大石「こんにちは・・・大石です。」</p> <p>葉子「お世話を・なりました。」</p> <p>大石「いえ、今日はこれから、どんなふうにも暮らしのお手伝いをさせていただくか、奥様と一緒に考えて行きたいと思いますが、よろしいですか。よろしくお願ひします・・・」</p>
<p>孫と一緒にリビングに出て行くご主人</p>	<p>大石「退院されていかがですか・・・、少しは生活は落ち着かれましたか？」</p> <p>葉子「落ち着いたといいますか・・・、何も・できなくて・・・」</p> <p>大石「お孫さんのことですか・・・？」</p> <p>葉子「それもありますが、なにかするにしても主人に頼らなくちゃいけませんので・・・」</p> <p>大石「・・・」</p> <p>葉子「そしたら、こうやって、寝ている方がいいかと思っています・・・」</p> <p>大石「日中も、こうしてずっとベッドに横になっていらっしゃることが多いんですか・・・」</p> <p>葉子「ええ、食事や・トイレの時以外は・・・」</p> <p>大石「・・・？」</p> <p>葉子「やはり、何かしようとする、主人に迷惑がかかりますので・・・、何にもしないで寝ていたほうが一番いいんじゃないかと思っています・・・」</p> <p>大石「病院では、ずいぶんリハビリをがんばってらっしゃったというふうに伺ってましたけど・・・」</p> <p>葉子「でも、やっぱり、家ではね、なかなかできな</p>

<p>□同・ベッド上 自力で座位をとる葉子さん</p>	<p>くて・・・」 大石「・・・病院ではできたのに、お宅では難しい ですか？」 葉子「ええ、なかなか家ではね・・・」 大石「まだ退院したばかりですものね・・・、まず は、できることからやってみましょう、それが大 切だと思いますよ・・・」 葉子「・・・」 大石「ちょっと、起き上がってみましょうか？」 葉子「ええ・・・」 主人「じゃ、いつもやっているようにやってみてご らん・・・」 大石「お一人で上手に起きあがれましたね・・・」 葉子「・・・」 大石「日中はどう過ごされることが多いんです か？」 葉子「ほとんどテレビを見たり・・・」 大石「・・・」 葉子「たまには、孫に絵本を読んでやったり・・・」 大石「他には・・・」 葉子「いろいろやりたいんですけど、・・・ほとん ど、主人がやってくれますので・・・」 大石「そうですか・・・お食事も、ここでなさるん ですか？」 葉子「ええ・・・」 大石「お支度はどなたが？」 葉子「朝は、嫁が・・・後は主人が・・・息子夫婦は 夕食が遅いので、時間が合わないんですよ」 大石「そうですか」 葉子「主人が、よくやってくれますので・・・」 大石「良かったですね」 葉子「ええつい、頼ってしまって・・・、でも一日 も早く・・・元に戻りたくて」</p>
---------------------------------	---

<p>病院退院時の身体状況のメモを見る大石</p>	<p>大石「それはそうですよね。病院の先生からも聞きましたよ。森下さんは努力家ですって・・・」</p> <p>葉子「やはり、主婦ですから、できれば台所に立ちたいと・・・やはり無理みたい・・・」</p> <p>大石「・・・無理ですか?・・・」</p> <p>葉子「ほんとはね、家に帰ると、孫やたちと息子たちと一緒に食事ができるかしらと思ったんですけどね・・・」</p> <p>大石「そうですね・・・」</p> <p>葉子「できるようになるかしら・・・、みんなに迷惑がかかると思って、つい考えちゃって・・・」</p> <p>大石「そんなことはないですよ・・・、こんなに長く座っていられますし、ここから食堂まで動くことができれば、みなさんと一緒にお食事できると思いますよ・・・」</p> <p>葉子「・・・、それがね・・・」</p>
<p>大石の目にとまるビニール袋に入った短下肢装具</p>	<p>大石「・・・」</p> <p>葉子「歩いていこうとしたんですけど、怖いんです。転びそうで・・・。床も滑りそうだし、杖をついても転びそうで・・・一度主人にトイレまで連れて行ってもらったんですけど、一緒に転びそうになってしまって・・・それ以来、ベッドから離れるのが怖くて・・・」</p> <p>大石「そうだったんですか・・・病院では杖で歩けたのに、お宅では難しいですか?・・・」</p>
<p>○やって来るご主人</p>	<p>ご主人「ええ。それで、つついポータブルトイレを・・・」</p> <p>葉子「・・・本当はね・・・ポータブルトイレを使うのは、いやだったんですけど・・・、これ以上なにかあると、つい主人に迷惑かかると思って・・・」</p> <p>ご主人「迷惑だなんて。そんなことはないよ。」</p> <p>葉子「・・・」</p> <p>大石「恐れ入りますが、ちょっとポータブルトイレ</p>

<p>○ベッド柵に手を掛け、立ち上がり、ご主人の介助でようやく、ポータブルトイレに腰掛ける葉子さん</p> <p>廊下のトイレ方向を見る大石</p>	<p>に移る様子を見せて頂けませんか？」</p> <p>葉子「ええ、・・・」</p> <p>主人「じゃ、いつもやっているようにやってみようか」</p> <p>ご主人「こうしてズボンを上げたり下げたりするんですよ、それが大変なんですよ・・・」</p> <p>大石「・・・」</p> <p>葉子「だから・・・なるべく迷惑は、かけたくないんですよ・・・」</p> <p>ご主人「迷惑なんかしてないよ・・・でも、何とか自分で行けるといいですよね・・・」</p> <p>大石「・・・」</p>
<p>□森下さんの家の間取り図</p> <p>トイレの位置を表示 画面ワイプして</p>	<p>ナレーション</p> <p>「ここで、この家の間取りを簡単に見てみましょう。画面左上にある玄関を入ると、すぐ右手に電動ベッドが置かれている和室があります。そのなりに、居間、食堂、台所が続きます。居間の向かい側にトイレ、浴室、洗面所があります。二階は和室が二間並び、その右手に洋室があります。また、トイレ、洗面台もあります。倒れる前は階段を上った正面の和室を寝室として使っていました。」</p>
<p>□廊下に出る大石とご主人 段差を気にする大石</p>	<p>大石「・・・、ちょっと、トイレを拝見させていただいてよろしいですか？」</p> <p>ご主人「どうぞ」</p> <p>大石「一度、トイレまでご主人が介助されて行かれたらっておられましたか？」</p> <p>ご主人「二度ほどですよ・・・、家内を抱えてトイレへ行こうとしたんですけど、なかなかうまくい</p>

<p>□ トイレ前</p> <p>トイレのドア開閉と、廊下の段差を確認する大石、その傍らに、ご主人</p> <p>主人のことばに振り向く大石</p>	<p>きませんでしてね。ずいぶん自分も体力が落ちたなと思いましたよ・・・」</p> <p>大石「たとえば、転びそうになったとか・・・」</p> <p>ご主人「そうなんです。トイレにたどり着くまで一苦労だったんです。手すりでもありや、もっと楽なんです、抱えていても、自分がまるで、倒れちゃうような・・・」</p> <p>大石「危なかったですね」</p> <p>ご主人「それに、さっきご覧頂いたように、やはりズボンの上げ下ろしもね、大変でね・・・」</p> <p>大石「かがむのに、腰に負担がかかってしまいますものね・・・」</p> <p>ご主人「これがトイレなんです」</p> <p>ご主人「狭いでしょう。やはりトイレは無理でしょうかね・・・」</p> <p>大石「そうですね・・・、病院と同じようにはいきませんから、トイレの動作については一度、理学療法士の方に来て頂いて、どうしたら良いかを一緒に考えてみようと思うのですが、いかがでしょうか・・・」</p> <p>ご主人「ええ、そうしていただければ・・・」</p> <p>大石「ところで、入浴はどうされていますか?・・・」</p> <p>ご主人「・・・、はずかしいことなんだけど、退院してから、一度も入れていない。いや、入れるのが怖いんです・・・」</p> <p>大石「そうなんですか・・・」</p> <p>ご主人「一昨日、嫁と二人で入れようとしたんですが、危なくてね・・・シャワーだけでかぜをひいてもいけないと思って、あまり無理をしませんでした。」</p> <p>大石「そうでしたか、毎日の洗顔はどうなさっていますか?」</p> <p>ご主人「それは、朝と夜、蒸しタオルでふいています。」</p> <p>大石「ベッドの、所ですか?」</p>
--	--

	<p>ご主人「ええ。・・・。」 大石「うの・・・、ちょっと浴室を拝見させていただいてよろしいですか・・・」 ご主人「ええ、もちろん」</p>
<p>□風呂場を見せてもらう大石 段差を気にしながら説明するご主人</p> <p>浴槽の高さや、入り口の段差を入念にチェックする大石 傍らのご主人</p>	<p>ご主人「この浴槽なんですよ、困っているのが・・・」 大石「・・・」 ご主人「それに狭いし・・・」 大石「確かに、奥様の場合、杖や装具がないと立っているのも難しいですし、浴槽も介助がないとまたぐことも大変ですし・・・病院でも入浴は介助を受けていたようでした。浴槽も腰かけてまたいでいたようですね・・・」</p> <p>ご主人「やはり、なんとか風呂には入れてあげたいと思いますね・・・、私らでも気分転換になるんですから、家内にとってはなおさらですね・・・」 大石「そうですね・・・」</p>
<p>□ 台所も見て回る大石とご主人</p>	
<p>□ ベッドの部屋へ、戻る大石とご主人 玄関脇の階段が気になる大石</p>	<p>大石「あの今回の入院前は、2階にお住まいだと伺いましたけど・・・。ちょっと2階も拝見させていただいてよろしいですか？」 ご主人「あっ、嫁も帰ってくるので、それからでよければ・・・」 大石「お嫁さんのお仕事はどのような？」 ご主人「役所へ勤めています。今日はあなたが見えるというのですぐ帰ってくると言っていましたので、もうすぐ帰るでしょう。 以前は、孫の迎えや、台所やその他の家事も・・・、</p>

<p>○その時 玄関の開く音がする。</p> <p>やって来る良子</p>	<p>ほとんど家内がやっていたんですよ・・・」</p> <p>大石「そうでしたか・・・」</p> <p>ご主人「倒れる前は、本当によく動いたんですよ。孫たちの子育ても手伝ってました。息子の帰りが遅いもんで。嫁も家内にずいぶん感謝してましたよ。」</p> <p>大石「たしか、一階での生活を勧められたのは、病院でしたよね・・・」</p> <p>葉子「ええ・・・、主人も、息子も、そのほうがいいって言ってたんですけど、・・・でもね・・・」</p> <p>大石「何か、気になることでもありますか？」</p> <p>葉子「息子たちの帰宅が遅いでしょ・・・それにここは玄関に近いから・・・」</p> <p>大石「息子さんのお帰りは遅いんですか・・・」</p> <p>葉子「ええ、ほとんど毎日、深夜になりますね・・・私を気づかって静かにしてくれてはいるんですけど、夜食なんかも食べてるみたい・・・どうしても、音がするから気になって・・・」</p> <p>大石「そうですか、音が気になると目が覚めてしまいますものね・・・」</p> <p>葉子「ええ。退院してからずっと眠りが浅くて・・・。2階は日当たりが良くて、落ち着けますから、もとのように二階で生活できたらいいと思います・・・」</p> <p>主人「そうだよね・・・」</p> <p>ご主人「おっ、帰ってきたようですよ。嫁が・・・」</p> <p>良子「いらっしやいませ」</p> <p>ご主人「良子さん、ちょっとケアマネジャーの大石さん」</p> <p>大石「初めまして、大石です」</p> <p>ご主人「退院のときベッドなんかをお世話してくれた・・・」</p> <p>良子「お世話になっております。」</p> <p>大石「いえ・・・」</p>
---	---

<p style="text-align: center;">画面ワイプして</p> <p>□ 2階へ上がっていく、良子と大石</p> <p>□ 階段の高さと角度を気にしながら、一步一步上っていく大石 話し掛ける良子</p> <p>□ 8畳の洋室、6畳の和室、納戸などを見て回る大石 簡単な間取りを、取っている大石</p> <p style="text-align: center;">階段を上から眺める大石</p>	<p>ご主人「良子さん。ちょっと2階を見たいそうなんだ・・・」</p> <p>良子「ええ、はい。ちょっと散らかっていますが・・・ それでよければ」</p> <p>大石「すいませんね」</p> <p>良子「こちらこそ・・・どうぞ・・・」</p> <p>大石「・・・」</p> <p>良子「お義母さんが、ああなってから、お義父も本当に良くやってくれているんです。あたしは仕事が忙しくて何もして上げられなくて・・・」</p> <p>良子「倒れる前は、ここを寝室に使用していました。」</p> <p>良子「二階のトイレはここになります・・・ここは子供部屋です・・・」</p> <p>大石「・・・ところで、良子さんとしては、これからお母様がどんなような生活をされることがお望みですか？」</p> <p>良子「・・・、できれば、そうですね、元どおり2階での生活に戻れば良いと思っています・・・、でも、この階段がね・・・」</p> <p>大石「・・・」</p> <p>良子「退院ということで、急いで1階にベットを入れて上と下の生活を取り変えたでしょう、なんとなく生活のリズムが狂っちゃって・・・、ストレスがたまりそう・・・」</p> <p>大石「ご主人はどんな仕事を？」</p> <p>良子「商社員です。帰りが遅い仕事なので平日はあまりあてにならないんです。それに、私も子供たちの世話や、今は家族全員の洗濯や掃除、それに食事の支度などで精一杯になってしまってます。なか</p>
--	---

□ 1階リビングで
再びご主人に話を聞く大石

大石の顔

ワイプして

□ ベッドに横になっている葉子さん

笑顔を交わし、帰ろうとする大石に一言いう葉子

傍らに孫やご主人もやって来

大石「良子さんも、かなりご主人のことを心配して
いました・・・」

ご主人「そうですか・・・」

大石「ところで、ご主人は奥様のことを含めて、こ
れからご家庭で、どのように生活されたいとお望
みですか？」

ご主人「少しずつでも、良くなってほしいとは思っ
ているんですけど、あまり高望みはしていませ
ん。私も家内ももう歳ですから・・・」

大石「いえいえ、まだお若いですよ・・・」

ご主人「・・・」

大石「奥様が退院なさってまだ間もないので、慣れ
ないこともいろいろあって大変でしょうけれ
ど・・・。少しずつご主人もご自分の時間をもて
るようになると良いですね」

ご主人「そうはいつでも、日中、家内一人残して出
かけるのは、何かあった時のことを考えると・・・
家内が病院に入っている時のほうが・・・気が楽
でした。」

大石「私たちは、奥さんのことはもちろんですが、
ご主人様にもそうですが、ご家族の方にもいい状
態で生活していただけるよう、精一杯応援させて
頂こうと思っているんですよ・・・。」

ご主人「……」

大石「失礼いたします、おじゃまいたしました・・・
お宅に帰られていろいろ不具合なことがおあり
でしょうけど、一つ一つ解決していきましょう
ね。奥さんは右手も自由に動きますし、今は調理
器具も便利なものいろいろ出てますから、工夫す
ればいつかきっとお料理が出来るようになりますよ。
やってみましょう・・・」

葉子「ほんとに、できるようになるかしら・・・」

<p>る</p> <p>やっと笑顔になる葉子さん 画面ワイプして</p>	<p>孫「おばあちゃんの料理、おいしかったものね」 葉子「うれしい・・・」 大石「やってみようという奥様の気持ちが一番大切 なんですよ・・・」 葉子「・・・」 大石「トイレに行くことやお風呂にも入れることも 夢じゃないですよ・・・、希望をもちましょう・・・」 葉子「・・・」</p>
<p>エピローグ</p>	
<p>□夜の道 森下さんの家を背にして歩いて いく大石</p>	<p>ナレーション 「ケアマネジャーの大石さんの、訪問を通して、退 院5日目の森下葉子さんの生活の様子を見てい ただきました。 これからの生活をどのように支えていったら 良いかを、皆さんで考えてみて下さい。」</p>

資料 3-1 配置図

